

議員提出議案

意見書を国に提出

「農業者戸別所得補償制度の復活」を求める意見書

「埼玉一の米どころ」の当市

は、農業を基幹産業と位置付け、担い手育成など農業支援に取り組んでいる。しかし、米価は生産費を大きく下回っており、本年10月に農林水産省から公表された平成27年産の米生産費は、60キログラム当たり1万5390円であるのに対し、市内の代表的な銘柄であるコシヒカリの米価は、同年産が60キログラム当たり1万1040円である。つまり、稲作農家は、米一俵作って4000円を超える赤字となっているのが現状である。なお、平成28年産の市内のコシヒカリの米価は1万1600円で、同様の傾向が続いている。

当市の農家は一昨年の米価大暴落によって、昨年度の農業所得はマイナス9億円と大幅に減少しており、市内の農業法人の経営にも深刻な影響が及んでいる。

政府は平成24年度まで、主要農産物（米、麦、大豆など）の生産を行った販売農業者に対し、生産に要する費用と販売価格との差額を基本に交付する「農業者戸別所得補償制度」を実施し、稲作農家の米作り再生産と農村を支えてきた。

その後、「経営所得安定対策」へと制度が変わり、平成26年度から、米については10アール当たりの交付金が1万5000円から7500円へ引き下げられ、稲作農家の経営が一段と困難に直面している。しかも、この交付金も国による生産調整の廃止とともに、平成30年産米から廃止されるところである。

これでは当市の基幹産業である農業、特に「埼玉一の米どころ」の稲作農家の経営が成り立たなくなり、当市の地域経済が甚大な影響を被ることになる。

よって、稲作農家の経営を支えるため、農業者戸別所得補償制度を復活させることについて強く求めるものである。



「建設アスベスト訴訟の早期解決及び被害者全員の早期救済」を求める意見書

株式会社クボタのアスベスト被害が大きな社会問題になって11年が経過した。この間、石綿健康被害救済制度の給付者は、平成18年の制度発足以降、1万人を突破し、労災認定者を含め2万人を超えている。平成27年度のアスベスト疾患による労災認定数は、建設業で543人となり、全産業の52.6%を占めている。

建設産業は最大のアスベスト被害産業である。アスベスト含有建材を使用した建物約280万棟の解体工事が今後ピークを迎えることから、建設従事者並びに市民に対する被害の拡大が大変懸念されている。

大阪泉南アスベスト訴訟の最高裁判所判決（平成26年10月9日）を受け、厚生労働省は石綿工場に働いていた元労働者や遺族に対し、和解による賠償金支払いの枠組みをつくった。ところが、アスベストの最大の被害者である建設業従事者に対する賠償の制度はなく、現在、建設従事者とその遺族が原告となり、国とアス

ベスト建材製造企業を被告とする訴訟が、東京・福岡・大阪の高等裁判所及び札幌・東京・横浜の地方裁判所で行われている。

アスベスト原因の疾患は、重篤で完治はありえず、原告のなかで訴訟後、多数の被害者が亡くなっており、首都圏建設アスベスト訴訟における東京地方裁判所の第1審判決（平成24年12月5日）を踏まえ、さらに建設業従事者の深刻な被害に対する補償に向けて、立法府及び関係当局における真剣な検討を望むものである。

よって、建設アスベスト訴訟の早期解決及び被害者全員を早期救済することについて、強く求めるものである。

「地方議会議員の厚生年金への加入」を求める意見書

地方創生が、我が国の将来にとって重要な政治課題となり、その実現に向け大きな責任を有する地方議会の果たすべき役割は、ますます重要となっている。

こうした要請に応えるため、地方議会議員は、これまで以上に地方行政の広範かつ専門的な諸課題について住民の意向をくみとり、的確に執行機関の監視

や政策提言等を行うことが求められている。

また、地方議会議員は、議会活動のほか地域における住民ニーズの把握等様々な議員活動を行っており、専業として活動する議員の割合も高くなっている。

しかしながら、統一地方選挙の結果をみると、投票率が低下傾向にあり、当市も例外ではなく、昭和54年以降、市議会議員選挙の投票率が下がり続けており、住民の関心の低さや地方議会議員のなり手不足が深刻な問題となっている。

こうした中、選挙権年齢の引き下げに伴い、若者に対して政治への関心を高めるための啓発活動の充実強化を図るとともに、地方議会議員を目指す全ての若者や女性をはじめ、志のある者が立候補しやすい環境をつくるためにも、既に廃止された議員年金制度を時代にあわせていものにも再構築することが、人材の確保につながっていくと考える。

よって、国においては、国民の幅広い層からの政治参加や地方議会における人材確保の観点から、地方議会議員の厚生年金加入のための法整備を早急に実現するよう強く要望する。